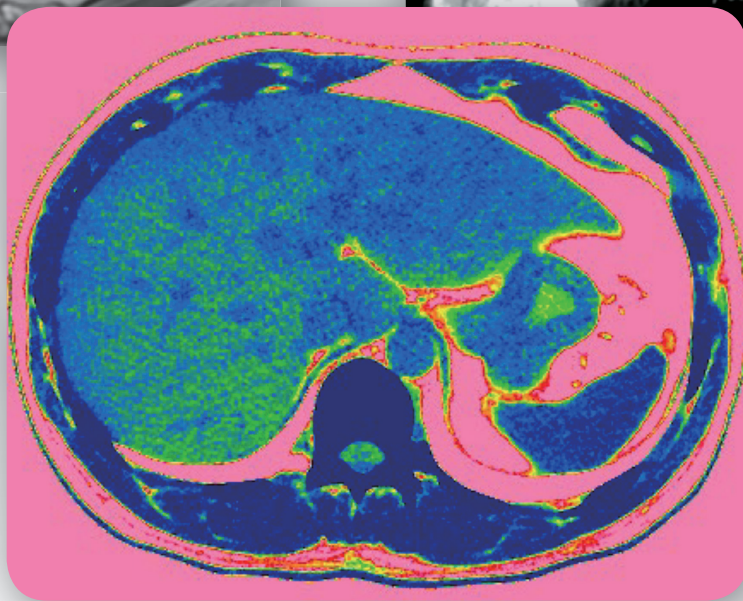
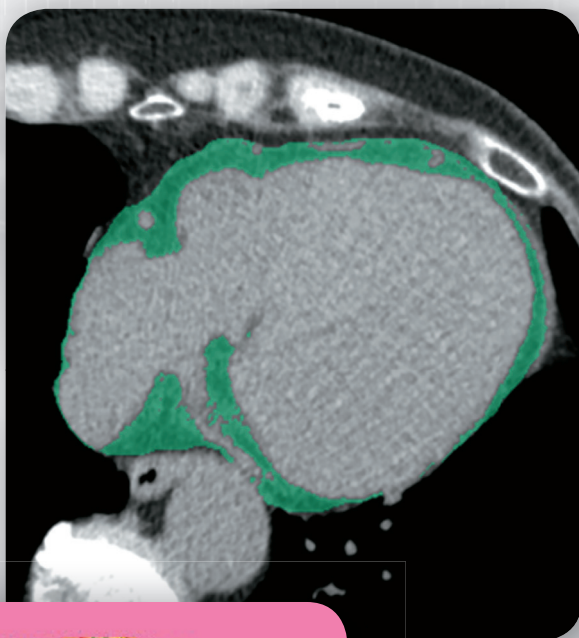
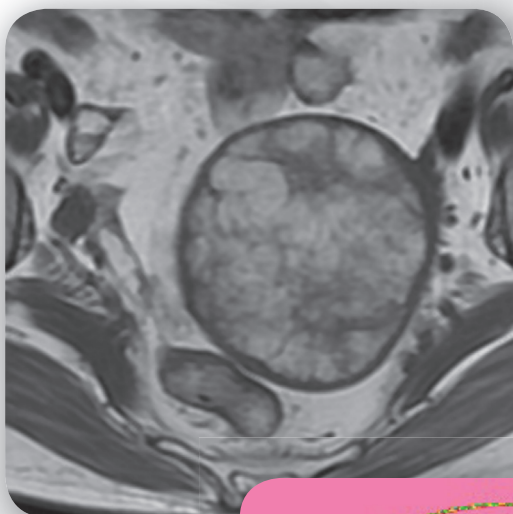


特 集

画像診断における脂肪の意味



(写真：p. 258, 285, 301より)

：存在からその意義まで

序説

脂肪の存在は画像診断の鍵になる。よってこれまでの画像診断において脂肪は存在のみに着目されがちであった。一方で肥満は糖尿病や心筋梗塞，脳卒中の原因となるばかりではなく，癌の発生にとってもリスクであることがわかってきており，近年画像で脂肪を定量することの意義が非常に高まってきている。そこで今回，脂肪の存在のみならずその意義にまで迫ることを本特集の目的とし，それぞれの領域の専門の先生方に執筆を依頼させていただいた。

まず内科的観点から，広島大学 分子内科学の大野晴也先生に脂肪組織の種類と意義について概説いただいた。次に画像診断の観点から，胸部領域においては，愛媛大学放射線科の井手香奈先生らに，上腹部の脂肪定量に関しては大阪大学 放射線医学教室の福井秀行先生らに，泌尿器疾患については慶應義塾大学 放射線科学教室(診断)の秋田大宇先生らに，イメージング・バイオマーカーとしての心臓周囲脂肪について熊本大学 放射線診断学分野の永山泰教先生に，骨軟部領域における脂肪の存在意義について東北大学病院 放射線診断科の常陸 真先生らに，婦人科疾患については徳島大学 放射線科の竹内麻由美先生らに，脂肪の存在意義ならびに画像による脂肪の評価方法について解説いただいた。

各先生方のご尽力により，脂肪細胞の種類や機能についての最新の知見，脂肪の存在が診断の鍵になる疾患の解説からイメージング・バイオマーカーとしての脂肪の意義まで，非常に濃い内容の特集となった。監修にあたり原稿を拝読させていただいたが，もはや監修ではなく，一読者として蛍光ペンでマーカーをひきながら，脂肪の奥深さに驚きつつも非常に興味深く熟読させていただいた。お忙しいなか本特集の執筆を引き受けてくださった先生方に深謝するとともに，本特集が読者のみなさんにとって画像診断における脂肪の意味について，存在のみならずその意義まで感じていただければ編者として大変嬉しい限りである。

中村優子